

# 愛・誠・勇

福島市立福島第三小学校

令和元年度『学校だより』

第21号 R2, 2, 27

校長 佐藤 秀美

文責 教務主任 齋藤 康則

## なわとび記録会

18日(火)～20日(木)のそれぞれ1・2校時、3・4校時に各学年が体育館で「なわとび記録会」を行いました。

なわとび運動は『巧みな動き』や『動きを持続するための能力』を高め、体力を向上し、めあてに向かって根気強く努力する態度を育てていくことをねらいとして取り組んでいます。その成果を発表する機会として記録会を行いました。

実施した種目は、共通種目として「持久跳び(短)」(低学年3分、中学年4分、5学年5分 6学年6分)と「3分間集団跳び(長)」, 選択種目として、短なわの「かけ足とび(前・後)」「後ろ両足跳び」「あや跳び(前・後)」「交差跳び(前・後)」「二重跳び(前・後)」「二重あや跳び(前・後)」「サイドクロス(前・後)」「二重交差跳び(前・後)」「三重跳び(前)」などにチャレンジしました。

中には、三重跳びを25回も跳んだお子さんもいて、とてもハイレベルな記録会になりました。

連日、多くの保護者の方に、体育館で声援を送っていただき、子ども達も張り切って、いつも以上の力が出せたようでした。応援ありがとうございました。



## 情報モラル授業

26日(水)に4・5・6年生が情報モラルについての授業を行いました。この授業では、専門の先生に来ていただいて、SNSの危険性やインターネットを利用する際の注意点などについてくわしく教えていただきました。改めて、パソコン、タブレット、スマホだけではなく、小型ゲーム機でもネットにつながってしまうということの恐ろしさについて考えさせられました。

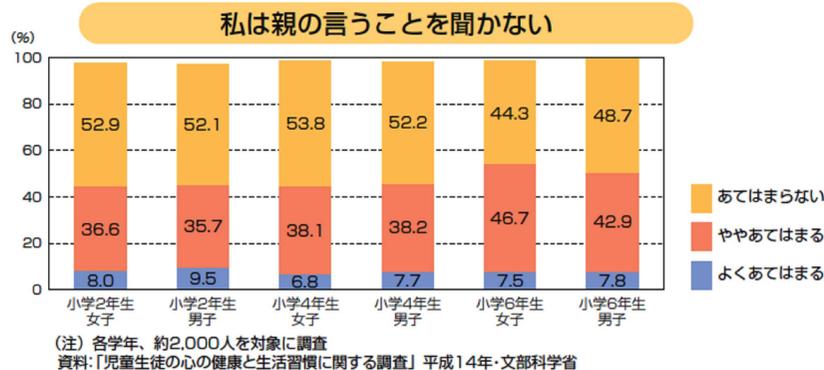
ご家庭でもフィルタリングはもちろんのこと、お子さんと「インターネット利用に関する家庭のルール」について確認していただければと思います。



## 言うことを聞かないのは、 子どもの自立が始まった証拠。

思春期や反抗期がくると、<sup>からだ</sup>身体の成長に心の成長が追いつかず、ちょっとしたことで有頂天になったり深く傷ついたりします。また、異性や性への興味が高まる、自我が強まり親や先生がうっとうしくなる、秘密をもつなど、成長という変化の中で心が最も不安定になります。ですから、子どもが言うことを聞かなくなっても、いたずらに動揺したり抑えついたりする必要はありません。子どもの自立や親離れが始まった証拠です。むやみに干渉し過ぎず、子どもの力を信じてあたたかく見守りましょう。

しかし、それは腫れ物にさわるような接し方とは違います。冷静に子どもの姿を見つめ、常に会話を重ねる努力をしましょう。



思春期の子どもを理解し、逃げずに見守る

## 幸せとは手に入れるものではなく、 すでにこうして生きていることかも。

幸せとは、家族や友人がいて、空気や水があって、地球という星が差し出してくれるものに支えられて生きていること、ともいえます。幸せになるのに必要なのは、当たり前の中ですでにある幸せに気づき、感謝し、それを味わうことです。

感謝の気持ちから、ものを大切にしてゴミを減らす、海や山でゴミを捨てない、水や電気を無駄遣いしない、などを小さいころから習慣づけることが大切です。そうした身の回りの小さなことの実践が、環境を大切にする心をはぐくみます。



環境を大切にする心を育てる